

幕末期の

山崎藩本多家と大坂

延宝七年(一六七九)九月本多忠英が、幕府より穴粟郡内で所領高一万石を拝領し、ここに山崎藩本多家が成立します。

山崎藩本多家は、本多平八郎忠勝を家祖とし、代々江戸城中において帝鑑間に殿席を有する名門譜代大名でした。本多家は、武門の家として徳川幕府で重視され、八代目当主の忠郷は、大坂定番に二度抜擢されました。

定番職は、やがて老中に昇進する城代の補佐官で大坂の重鎮でした。忠郷は、城代や町奉行と寄合を開き、江戸の老中と連絡を取り合い、軍事だけでなく民政も含め西国の幕政について協議していました。

忠郷は、安政四年(一八五七)閏五月(文久三年(一八六三)五月と慶応二年(一八六六)五月)同三年五月の二度、定番職に在任していました。



本多忠郷の大坂定番時代の記録「大坂御定番中覚帳」

一度目の在任中の安政五年には、日米修好通商条約締結問題が発生します。城代の土屋寅直は、大老井伊直弼や老中堀田正睦が推進する幕府の開国政策に反発し、その際に忠郷は寅直から強く同意を求められました。寅直は水戸の徳川斉昭と親類で密接な間柄でしたので、井伊派による安政の大獄で城代職を辞任に追い込まれました。万延元年(一八六〇)三月になると、桜田門外の変がおこり、水戸の脱藩者により直弼は暗殺されます。その情報が大坂の定番上屋敷にも伝えられ、京都や大坂において攘夷派志士が暗躍するという「不穏」な国内情勢下で、忠郷は定番職を遂行していたといえます。

文久三年三月、家茂は二三〇年ぶりに將軍として上洛し大坂城に入りますが、元治元年(一八六四)七月には、第一次長州戦争を始めます。その間に、忠郷は定番職を解かれ、藩は広島への出陣を命じられました。

慶応二年五月、忠郷は再び定番職に任じられます。この年は、第二次長州戦争中であり、幕府軍の敗報がもたらされるなか、將軍家茂が大坂城を居所としていました。その家茂が二十一歳の若さで急逝します。こうした緊迫した政治情勢のもとで、忠郷や家臣たちは大坂で幕府を支えていたのです。

安政期以降、山崎藩は、ゲバール銃といでミニ工銃による銃陣訓練をはじめとする西洋流砲術に取り組み、天



「大坂御定番中覚帳」
万延二年2月1日条

下泰平の世から幕末の動乱に巻き込まれていきまし

近代化をまず推進します。しかしその一方で安政四年に、藩医西村接斎(松軒)が江戸や山崎で家来や領民に種痘を実施し、万延二年(文久と改元)二月には忠郷の娘於勉が大坂の定番中屋敷で緒方洪庵より種痘を施されていました。山崎の人々は、藩より近代的な医療の恩恵も受けていたのです。

公益財団法人山崎本多藩記念館(代表理事横井時成)には、掲出した「大坂御定番中覚帳」(大阪城天守閣が翻刻)をはじめ、日本の近代化を知りうる古文書が数多く残存しています。後世に伝えていかなくてはならない貴重なアーカイブズ(保存記録)です。

現在、京都大学人文科学研究所の岩城卓二准教授が研究代表者となり、兵庫県立歴史博物館の藪田貫館長や大阪大学大学院文学研究科の村田路人教授などが協力し、山崎藩本多家文書の研究を進めています。追々その成果が公表され、本多家文書に対する史料価値が、さらに高まっていくことでしょう。

(淳心学院中・高等学校 菅良樹)

編集後記

2015年も残すところ僅かとなりました。今年を振り返る意味で、今月号は恒例の「市政10大ニュース」を載せています。毎年、何を挙げるか職員で話し合っています。結果は29頁のとおりです。皆さんにとりまして、今年の10大ニュースは何ですか。一度、ご家族や友人、あるいはグループなどで話し合われても面白いかもしれません。いずれにしても、良いニュースがたくさんあればいいですね。来る2016年はどんな一年になるのでしょうか。良いニュースや楽しいニュースをたくさん伝えられることを願っています。それでは、今年も「広報しろう」をご一読いただきありがとうございます。来年もよろしくお願いいたします。

眞

広報しろう 12月号

平成27年12月15日発行(129号)

発行/穴粟市 編集/企画総務部秘書広報課 〒671-2593 兵庫県穴粟市山崎町中広瀬133-6

☎0790-63-3000(代) FAX 0790-63-3061(代) ✉info@city.shiso.lg.jp 🌐http://www.city.shiso.lg.jp



この広報紙は環境保護のため、植物油インキと古紙再生紙を使用しています。

Public Relations SHISO
[2015.12]